

處長には内務省東京土木出張所の勅任技師たりし箕斌治氏が就任、その下に新潟土木出張所の後藤憲一氏、下關土木出張所の本庄秀一氏の兩技師が就任した。この外近く決定すべき我國よりの技術家を合すれば、總勢技師七名、技手屬約四十名に達する豫定である。滿洲國の新年度は来る七月からであるから、友邦の若き技術家諸氏と我が経験家とが机を並

べて新興國の道路河川工事の事務をとるのも近いことであらう。

因に箕、原口兩氏一行は五月二十二日午前九時東京驛發燕號にて、中島、本莊、吉村の三技師と技手屬六人及び途中よりの後藤技師等と共に官民多數の歡送裡に赴任の途についた。寫眞は當日東京驛出發の際の狀況で、さしものホームも見送人で埋められた。

## 土木學會エキスカーシヨン

### 丹那隧道と箱根國道

初夏の好晴に恵れた、土木學會第十八回視察旅行は、五月六日午後一時横濱驛前から一行百二十餘名新緑の東海道をドライブして、同夜熱海町樋口旅館に一泊し、翌日三島町に出て箱根を越え、塔之澤環翠樓にて晚餐の後解散した。

其間泉越トンネル改修工事、丹那トンネル工事及び内務省、神奈川縣、静岡縣等の道路工事を視察し、各關係官廳當局及地元の歡迎に充分の歡を盡して愉快なる旅行を終つた。

#### 松並木の好風致

東海道のドライブ、ウエイとしての國道第一號

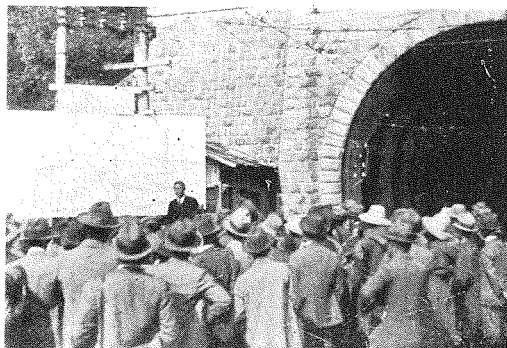
線には、舊東海道の松並木の風致を生かす事に種々苦心をされてゐるが、戸塚と藤澤間の處々では此の松の巨木の兩側に上り線と下り線と云ふ風に道路を分けて、中央に綠地が出来てゐる。内務省横濱土木出張所の設計で、實に好い思い付である。

#### 平山所長の講演

世界的の難工事たる丹那トンネルも今日では導坑六百餘尺を残すのみとなつて、ハツパの響も向側へかすかに聞える程になつた。それで丹那盆地下の難所も近いうちに貫通を見る事であらうが、起工以來今日まで約十八ヶ年の歳月と二千五百萬圓の工費を

投じた事となつてゐる。

大地震に二度も遭ひ、斷層と湧水の爲に崩壞を生じて人命を失ふた事も數度に及んでゐる。所管の熱海建設事務所所長も幾回か代り、今日では其八代目所長が平山復二郎氏である。



(1)、丹那トンネル東口に於ける平山所長の講演(五月七日)

五月七日午前九時、丹那トンネル東坑口前の廣場は相模灘を見晴して初夏の強い太陽が土木學會視察團百二十餘名を照りつけてゐる。平山所長は素朴な態度で廣場に設けられた講演壇に立ち、丹那トンネル工事の經過を報告して最後に

『要するに丹那トンネルではシールド其他種々

の特種工法を用いましたが、結局斷層を迂回して水抜坑道を設ける方法が最も効果ある方法でありました』

と、實際的に權威ある決論的發表をした。

#### 熱海はま洋のモナーク

熱海樋口旅館大廣間の晚餐會席上で静岡縣知事『熱海はモナークの様な處で進覽保養には絶好の地であります。賭博以外なら如何なる事でも有ゆる御希望を満される處であります云々』

散會後會員一同浴衣掛のまゝソロソロ散歩に操り出し、熱海のメインストリートから

横町まで探検して来て、老若一同トンネル小路のステイサーヴィスに驚いてゐる。

### 漫談と洒落の車中

七日熱海トンネル西口工事を視察した土木學會一行、好天氣に恵まれて上氣嫌で大場に向ふ建築列車中一光景。

名井老博士を中心に前には内務省の牧野國道課長、横には神奈川県田邊土木部長、其他中老組の技術家連で漫談の花が咲いてゐるホラカさである。

名井博士と西出辰次郎氏と土木學會第一回のエキスカッションに於ける古市男爵の談や、直木倫太郎博士眼鏡壊しのWidow Bleakerなどの秀逸な懷舊談が出て車内は哄笑のウヅマキとなつてゐる。當意速妙の駄洒落の名人は西出氏の獨壇場であるが、名井博士が箱型の客車を説明しつゝ『北海道では此の車の中央にストーヴを入れるが、ストーヴを入れると乗車の定員を減じて、客を餘計に乗せぬ事にして居つた』と、言葉の終らぬ内に西出氏『ストウ(人)を馬鹿にしてゐる』で、また大笑い。

車内は斯んな無邪氣な漫談の連続で、車外は初夏の新緑にカゲロウがあがつてゐる。

### 東海第一の夫婦松

三島町の官弊大社三神明神を車中より伏し拜み右に折れて箱根越八里のドライブにかゝる。

老木の松並木は天下の名勝道である。特に其右に夫婦松の大木一本あり、地上數尺にして二股となり、其間に又一枝を生じ、三本の巨幹天に直立して、其スナホなる生長の有様は天下の松樹中に稀なるものであらう。シメ飾りでもつけて保護したい程のものである。

### ヌストウマヤ(盗人厩舎)

箱根越の街道を右に曲り左に折れ、見晴の好い山腹を幾曲りが登つて、行手に一段高く見ゆる處、遞

信省の航空用無線塔が聳えてゐる。其右手に曲れば所謂十國時の自動車専用道路がある。幅6mの砂利舗装道だが箱根と熱海の脊嶺をつなぐものである。

遙かに駿河灣から吹き来る烈風を衝いて、此専用道路を視察する。左側の山腹を切取つた跡に貼芝をしたものが、完全に繁殖してゐるのは見ものである。好晴の日曜になればこそ、此の烈風中でも熱海方からドライブするものに數臺出會つた。

ヌストウマヤ(盗人厩舎)と稱する見晴臺から左一



(2)、丹那トンネル西口坑内視察服装中の那波光雄博士(中央)と曾山親民氏(右)

里を下されば、湯河原に達する處で、餘りに風強くして引返した。此邊數里の間一軒の人家もなく、樹木もない、右は緩かなスロープに圓みのある山々と駿河灣を下に眺めるのみで、堂と草原のみの荒原である。或時は伊豆の馬を盗み、或時は駿河の馬を盗み、此の人跡もない荒原に隠れ、之

をまた駿河に賣り、伊豆に賣つたと言ふ、所謂ヌストウマヤの跡は今何物の影もない。

### 山津波の跡

箱根町附近は地震後の復舊道路工事で自動車は片側通行であるが、芦ノ湖の舊關所跡邊は立派に道路工事が竣工してゐる。其所で一同下車して先づ山津波の跡を視察した。

話には聞いて居たが眼前に立つて説明を聞くとまた一層の参考資料である。數町の谷間から生じた一種の地辻が、國道傍の小さい下水の石垣の傍で、その前端を留めてゐるのも不思議な事である。地辻と俱に縦の大木が根こそぎ切り出して、同じ石垣の傍で立留つてゐる。今日では枯木となつてゐるが参考資料として保存され度いものである。

### 珍らしく多い參會者

百二十餘名の參會は近年珍しい事である。先年富山縣の庄川及黒部川の水電工事を視察した時も可成りの盛會であつたが、あれば大阪に近い處から關西方面の會員が大きく出てゐたからであらう。

其關西方面からは常に車中漫談の名人で一行を賑

はす西出辰次郎氏を初め日電の石井顯一郎氏などで特に北海道土木部の神保金衛氏の元氣な顔も見えた若い技術家や學者連も相當に多かつた。

會長眞田博士は見えなかつたが、前會長の那波博士、名井博士などが見える。副會長の大河戸博士、同米本晋一氏なども見え、鐵道省方面は平井東京改良事務所長、竹股工事課長、平山所長など其他現職の人も相當見えてゐた。内務省方面では牧野雅樂之丞氏、來島東京土木部長、神奈川土木部長、木村静岡縣土木課長其他民間方面の老技術家も相當にあつた。ドライブの車中でも、宴會でも、裸體一貫の風呂場でも、常に此等老人の方が元氣な話題の中心となるのは、實に和氣霽々たるものである。

水の無い混凝土

泉越隧道の前で一同自動車から下りると、脚下に相模灣を望む見晴臺だ。緑の畑の中に眞白いテールが並んで速成の休憩所が出来てゐる。やがて東京改良事務所の平井所長が鳥越隧道改築工事の説明

者たる立花技師を紹介する。記者は立ち上つて立花技師の顔にポケットカメラに向けてシャッターを切つたが、熱海へ着いてから見ると、バックホルダーを閉ぢたまひだつたことが分り、オヤオヤこれでは途中で撮つた筈の相模川の昔の橋杭（鎌倉時代のもので記念物となつてゐる）もロスしてしまつたと口惜しがつた。

一回坑内の龜裂ヶ所や捲立改築のヶ所を視察し、て側壁のプロック疊築の立派さに感必した。成程場

所打コンクリートよりもこのプロックの方が完全な様だ。

坑外に出てプロック製造所を見學する。鐵製型枠の中へ球竿で強く叩き込んでゐる。そのコンクリートは殆んど水を入れない空練りの様なバサバサしたものだ。誰やらが「水の無い混凝土だ」と叫ぶ。處が、それが見て

ゐる眼の前で型枠が外されると、立派な堅いプロックに仕上がつてゐる。なる程スラムプは零だが強度は大したものだ。(一記者)



(3)、丹那トンネル西口に休憩中の田邊良忠氏(向つて左)と竹股一郎氏(右)

